

NPO法人全日本シニアアンサンブル連盟 広報誌

ひびきあい、

第17回シニアアンサンブル全国大会（創立25周年記念）報告

理事長・実行委員長 松永恒文

去る2024年5月26日(日)、お天気に恵まれ、お客様も大勢お越し下り、熱の入った演奏で、市原市市民会館大ホールにて初めての全国大会は無事に終りました。

出演は12楽団、11ステージ、午後1時開演、午後4時40分終演。お客様は約650名で、出演者は約250名(重複含む)、合計約900名の規模となりました。

思い返せば、昨年の4月24日頃に岡村理事長から頂いた電話が始まりでした。来年の全国大会は、市原での開催を引受けてくれないかという予想だにしていなかった内容でした。早速、市民会館大ホールを予約し、市原シニアアンサンブルこすもすの指導の先生と団員の皆様から開催を担当することの承諾を得て、準備はスタートしました。

幸い、市原市市民会館大ホールは、市原市の文化祭のイベント会場で、ここ2年ほど毎年使わせて頂いたことで、使い勝手が多少分かっていたのがその後の準備に好都合でした。

準備をスタートするにあたり次のような方針をたてました。

- (1) お客様は500人以上を想定し、集客に力を入れる。
- (2) 運営を円滑にするため主なスタッフは市原SEが担当し、周到に準備する。

(3) 手作り感を出してお客様に親近感を持つて頂けるよう工夫する。

このような方針のもと、以下のような具体策を講じました。

- ① 楽団の入替時には緞帳を下ろし、緞帳の前で司会や楽団紹介をおこなった。
- ② 各団の紹介や演奏曲の紹介は、出演楽団の団員が担当した。
- ③ リハ・本番ともお互いの演奏を聴き合うため、出演楽団には控室を用意せず、大ホールの後部客席を待機場所として割り当てた。
- ④ 最後の全体合奏は舞台上に加えて、客席からも演奏参加できるようにした。

当日の出演各団の演奏は、この大会に向けた練習成果を十分に発揮した力強い、素晴らしい演奏でした。また、各団の人数や楽器構成、演奏方法など多様性があり、趣向を凝らした演奏などもあつて、お客様には十分に楽しんで頂けたようです。

最後の全体合奏は、舞台上からの演奏に、客席後部からの演奏が重なり、お客様は音に包まれたかのように感じて下さったようです。

懇親会は、隣接の会場で、茶話会形式で行い、短い時間でしたが、楽しい交流の時を持ってました。



全シ連の最大のイベントである全国大会ですが、今回も、日頃、遠方でなかなか鑑賞できなかったこと、更に、各団が個性を発揮してそれぞれ目指す方向に頑張っておられることを強く感じ取ることができたことは、全国大会ならではの醍醐味でしょう。

また、全シ連としては、今後も全国大会をこれまでのように続けてよいのか、理事会で検討を始める予定です。

最後に、この大会に、スタッフとしてご協力下さいました皆様はもとより、出演してくださった楽団の皆様、遠くからお越しくださった皆様は心よりお礼申し上げます。